

県トヲ新 聞

社長 雑感

新幹線開通から 一年が過ぎて



北陸新幹線が開通して一年余りが経過した。利用者は当初の予想を大きく上回っているようだ。富山の町にも観光客が増えたのが実感できる。旗を持った添乗員とその後に連なる一行の姿が富山駅周辺でしばしば見られるようになった。富山に住む我々にとっても、新幹線の開通は関東方面に限ってだが、とても有り難い。今まで飛行機を使っていた関東方面の出張はほぼ全て新幹線になった。富山駅の北側に住んでいる私にとっては、東京駅までの所要時間は変わらないので、飛行機という選択肢はほとんど無い。その飛行機も、東京便が無くなるのではとの心配もあったが、日六便が四便に減便はされたが、搭乗率は七〇%近くあるようで、ビジネス客の多い富山の底力を見たように思う。羽田空港は国際線を拡張しており、今後もこの便数が維持されることを祈るばかりだ。

ところで、以前のブログでも書かせてもらったが、実は富山駅はまだ完成していない。富山駅の南北立体交差事業が残っている。現在、富山駅には出口が一つしかなく、南側の正面に出ることしかできない。北側に行くには線路の下を通る地下道を通って行くしかないのだ。中央改札口を出てから北口までは大人の足で三分ほどかかる。足腰の悪い高齢者などは、一回エレベーターを使わなくてはならず、一〇分弱かかるのではないだろうか？この立体交差事業は新幹線の開通当初、三年以内に完成すると言われていた。しかしその後程なく三年以内の完成は不可能と発表され、完成時期も未定となっていました。出張帰りにいつも思うことは、ああ、またあの地下道を通らなければならぬのか、ということである。荷物を持つての階段の上り下りは正直煩わしい。

そこで、完成時期はいつなのかとネットで調べてみたが、該当する記事が無い。富山市役所のホームページには事業のことは書かれてはいるが完成時期が記載されていない。そこで、直接電話で聞いてみた。この情報はどこのメディアより確実にアップデータであると思う。担当者の話では、完成時期は三〜四年先を予定しており、富山市としては平成三一年度末を目標にしているとの事である。当初の予定から二〜三年遅れたという事だ。早くてもまだ、四年近くかかりそうだ。今度は「有言実行」を是非お願いしたい。

吉澤比佐志

第43号 発行者 富山県トラック(株) 富山市水橋沖188 TEL076(479)6311 FAX076(479)6300

Happy Birthday!

お誕生日おめでとう!

6月生まれ

岡本さん
佐藤さん
中村さん
鈴木聖さん

7月生まれ

中野さん
蒸さん
丸山由さん

制服夏Ver になりました



Please! NEXT

次回担当は・ 坂木さん & 吉川さん

よろしく お願いします

県トヲブログ更新中
HPのトップページから入れます。毎週更新中！是非ぜひ見てくださいな



恒例八尾BBQ開催

四月二十九日(土)、毎年恒例の八尾吉澤社長宅でのBBQが開催されました。山菜とり放題の山里で、天ぷらにしたり肉を焼いたり、大いに楽しめました。吉澤社長毎年使わせていただき、ありがとうございます！

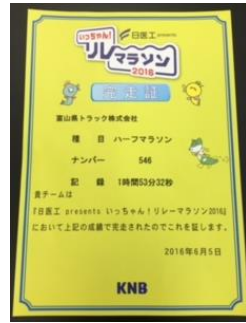


今年は14名参加！食も旨いが空気も旨かったです！



いっちゃん！ リレーマラソンに参加してきました！

六月五日(日) 県民公園大岡山ランドで開催された「いっちゃん！リレーマラソン」に、県トヲから五人の勇者が参加しました！



ハーフマラソンの部にエントリーし、二キロ(一周約二、一キロのコースを各自二周づつ)を無事完走しました。(当日は天候にも恵まれ、気持ちよく走る事ができました。また弊社のお客様企業も参加されており会場での交流もあり、楽しい時間を共有することができました。

来年度の開催には、もっと多くの参加を期待しております！個人的には、仮装部門での参加を目指します(笑)



有澤さんのかわりに川田さんが力走？？されました



祭 五百石祭り(立山)

これから夏真っ盛り、祭りの季節ですね！皆さんはどこか祭りに行かれましたか？山王祭り程ではないですが、私の地元立山町でも五百石祭りがあります。毎年五百石駅周辺で六月一日〜三日の昼まで屋台が並び、普段とは違い大賑わいです。元々は商売繁盛などを願い、町の中心部で屋台を出していた事がきっかけだったようです。

中学校や高校が近いので、学生の姿も多く見られます(私も学校終わりに行ってました！)。祭りが終わるとゴミの片付けは地元の方や中学生が行います。あまり考えたことはありませんでしたが、このような行事は地域の方たちの協力あってのものですよ！立山町が大好きな私も地域に貢献していきます。(丸山)



リフト免許取得！

物流一課の中川さんと田辺さんが先月フォークリフト免許を取得されました。今後はより一層作業内容を幅広く、安全第一で作業に取り組みさせていただきます。



土日&土日、計4日間お疲れ様でした

新連載

ものづくりにおける 現場改善の進め方

県トヲが長年お世話になっている田中先生から寄稿していただけたことになりました。皆さん一緒に勉強しましょう！



今回から「ものづくりに」における現場改善の進め方について、その概要をお話しさせていただきます。まず、現場改善の前に開発設計部門とのかわりについて少々述べさせていただきます。小職はメーカー勤務後、現場改善のコンサルを三〇年近く継続してきましたが最近思うことは、現場改善とはあまりに製造部門に偏った発想とアプローチが多いことです。言い換えると改善活動は落穂拾いの活動かなと思えることがしばしば見受けられるからです。というのも製品原価の八〇%は設計部門責任で造り込まれ、その後工程での工程改善、作業改善等が製造での主要な改善実施ポイントであります。部品点数削減、工程数削減、作りやすい工程等は前工程の開発設計部門でほぼ設定が完了しており、発売時期との関連で治工器具準備、発注先選定等の製造リードタイムとの戦いで押し切られていくのが現状の新製品開発のプロセスではないでしょうか？

開発部門の重要性はよく理解できます。現場改善は収益向上の手助けであり、抜本的なダンツの収益は新製品開発力であることは言うまでもありません。経営の基本は商品開発ともよく言われるのも理解できます。ここで「ものづくり」を「もの」と「つくり」に分けて考えると、ものづくりの本質は、単に物理的な構造物をつくることではなく、きめ細かに顧客ニーズを拾い上げながら、顧客にとって価値ある設計情報「もの」を具体的な形に「つくり」して顧客まで届ける一連のプロセスと考えら

れ、もの」は、顧客が何を望んでいるかを考え、付加価値を創出する力」と言い換えることができるのではないのでしょうか。その意味で顧客を視野外に置いた開発・生産体制の中からは決していい「もの」は生まれてきません。日本の製造業の「ものづくり」はこれまで、「つくり」に傾注して既存の製品の改良や高度化を図ってきたのではないのでしょうか。しかし先進国の市場が量的には飽和する一方、それぞれに要求が異なる新興国市場が急ピッチで拡大するグローバル市場において、従来の延長線上の商品化(開発設計)はその効力を失いつつあります。これまでも異なる性能や機能、価格などの尺度を提示して、潜在需要を掘り出し、新たな市場を創造したりしていかなければ、展望は開けません。まだ形になっていない消費者の「あったらいいな！」をいち早く商品にした企業こそが、これからのグローバル市場での勝者になれるでしょう。

(田中善吾)

【田中先生プロフィール】日本のメーカーにて、技術部、生産管理部、企画部、情報システム部を担当後、生産現場改善、業務改革コンサルタントとして独立。これまでの実績として国内・海外の製造業において、JIT生産システム・生産管理業務改革コンサルティングを行っている。著書に「現場長のための設備改善大事典」(日刊工業新聞)、論文では「MRPの実践」(日刊工業新聞)、「製造メーカーにおけるCIMの導入」(日刊工業新聞;工場管理)などがある。



集記 マラソンに参加して、自分の体力の衰えを痛感しました… (花井) 見やすい文章にするのが難しいです。(丸山)